



庄原市 重点プロジェクト

成果あせつた危惧が現実

ジュオン経営破綻で3回目の特別委員

1月17日、第3回「庄原市と㈱ジュオンとの共同事業に関する特別委員会」が、多数のマスコミ関係者、傍聴者が見守るなか、市長、副市長、担当課の出席のもと開催されました。前号について、経営破綻したジュオンとの共同事業の問題を取り上げました。

ベンチャー事業にリスクは当然 補助金返済いかなるものか

市長の冒頭の発言

特別委員会の冒頭、市長から次のような発言（谷口議員のメモより）がありました。

「事業の譲渡の面から継続させていきたいが、引き受けてくれるスポンサーがなかなか見つかりにくい。農水省の補助金の返済の件は、事業の性質上、いかなるものかと思っ

事業当初から問題は指摘されてきた

谷口議員が最初に質問

もつともなようにも聞こえますが、皆さんはどう思われますか。

質疑が始まると、今回は、谷口議員が一番手を上げて口火を切り

ました。市長は、新聞のインタビューに「市としては『寝耳に水』だった」と答えているが、本当にそんな認識なのか。事業開始当初から計画変更が何回も繰り返されていること、プラント建設企業の資金力が乏しいこと、専門家から事業の技術的問題点を繰り返し指摘されていたことなどを示し、真意を質しました。市長は、「若干の不安はあったが、事業の見直しも経費削減のためだと説明を受けていた。資金繰りが厳しいとは聞いていたが、破綻するとは思っていませんでした。見通しの甘さは認めるが、理念は間違っていない」という回答がありました。

今回は、谷口議員の質問を中心に、Q & A方式で、問題点を明らかにしたいと思



視察する湯崎知事・滝口市長らに説明するグリーンケミカル西本社長（昨年9月）

庄原市・ジュオンの共同事業問題Q&A

Q そもそも庄原市と（株）ジュオンとの共同事業ってなに？

A 滝口市長は、三つの「重点戦略プロジェクト」①農業自立戦略 ②観光・定住対策 ③木質バイオマス（＝生物由来するエネルギー資源）活用事業を推進しています。その木質バイオマス事業の中

Q 繰り返し事業変更が行われたと聞か、具体的にはどんな変更があったのか？

A 簡単に説明するため、とりあえず、製造品の製造目標の変更を中心に説明します。

次の表からわかること

1、平成20年5月、市が「地域資源循環技術センター」に、専門的な技術

（株）ジュオンの事業計画変更の推移

	① 20年5月16日 実施計画書	② 20年10月6日 事業計画の変更	③ 22年1月12日 計画変更承認	備考
エタノール	500 kl/年	0 kl	0 kl	
排ガス浄化溶液	750 kl/年	720 kl/年	720 kl/年	
リグニン	2,500 t/年	1,080 t/年	リグニン類 1,320 t/年	※リグニン類内訳 木粉 720t リグニン類 600t
セルロース系炭素	0 t	420 t/年	250 t/年	
	※発電施設も計画			

的支援を要請。5月20日に、庄原市、ジュオン、農水省、技術センターによる意見交換会。6月6日には、技術的支援の報告書が提出されています。その結果、20年10月②の変更のように、エタノールの生産中止とセルロース系炭素の生産、リグニンの規模縮小と整備期間が1年から2年が行われています。農水省の補助金の交付決定は、直後の10月10日です。

2、この表にはありませんが、平成21年1月には、再びグリーンケミカルから変更届が出されました。整備期間を2年から3年に延長する、重油ボイラーを木質ボイラーへ変更する、木質チップの粉砕機の変更、糖化設備の単年度整備を3カ年整備に延長を申し出ています。同年、21年度の5月7日には、中四国農政局が現地調査に入っています。市は、グリーンケミカルに資料提出を求め、メーカー資料を農水省に提出しています。

3、③の変更は、根本的な変更です。木質を微粉砕（20ミクロン）、糖化発酵させリグニン類やセルロース系炭素を取り出す（本来ならエタノールも）という、ジュオンと呉の産業技術総合研究所が共同で開発した技術（特許出願中）という目玉をあつさり投げ捨て、排ガス浄化液を絞った後の木質チップを微粉砕して、そこから直接リグニン類やセルロース系炭素を製造する方向に変更したからです。技術的には完全に行き詰っていたこととなります。取引先からの要望に心えたとされているが、実際の販売契約はできていません。

Q なぜこんな無謀な計画が、進行

したのか？

A 谷口議員は、議会内外で素人の直感で、木質チップの微粉碎と糖化発酵は試験管や実証実験ではできても、大規模プラントは無理ではないかと、指摘してきました。そのことは市が主催したシンポジウムなどで専門家も指摘していました。何よりも、先に紹介した「地域資源循環技術センター」の技術支援(20年5月)、木質チップを微粉碎することの技術的可能性、木質チップの糖化酵素溶液の安定的供給の技術的可能性、糖化後溶液からセルロース系炭素製造の技術的可能性、生成リグニンへのセルロース系残渣の混入の可能性など、問題点を指摘してました。実際には、それらがすべてにおいてクリアできなかったのではないかと思います。この時点で踏みどまり、実証実験を深めるべきだったと思います。

22年2月には、農政局から、「炭素の販路が確保できなかったら、不要な設備になる、計画した市としての見解を求めるところかなり厳しい質疑が寄せられています。そして改めて、事業実施主体(会社)は信頼できるか、計画した市が責務を果たすことが可能か、バイオの新技術で農林業の振興につながるか、国費以外の資金調達の目途は立っているのか、事業に持続性はあるかなど、最後通牒ともとれるチェックマニュアルの提出が求められています。それをクリアできると回答した庄原市に、逃げ道はないように思います。

Q 市長・副市長は、技術的な問題もあつたが、最大の破綻要因は資金ショートといっているが？

A 会社に技術力も資金力も無かったと

いうことです。実証実験棟はジュオン、工業団地の工場用地は、実施主体のグリーンケミカル(株)の所有、建物はグリーンケミカルが建設、機械設備は国の補助金でグリーンケミカルが購入・設置。コスモエースは鉄筋平屋建ての建物を担保に融資を受け、グリーンケミカルは補助金で設置した機械を担保に融資を受ける、本体のジュオンは、排ガス浄化液の販売不振もあり、11.5億円の負債と誰が見ても、自己資金はほとんど無かったのではと思われま

す。

Q 東城温泉のジュオンによるチップボイラーの停止と灯油ボイラーへの切り替えはなぜ？

A 平成21年7月ごろ、ジュオンの排ガス浄化液(BCL)の売り上げ減少で、絞りがすのチップ原料が不足するので、普通のチップを試験的に使ってみたいとの打診があつたようです。22年度事業の見直し

のとき見たように、グリーンケミカルで浄化液を作った後、その絞りかすをすべて木粉にして、リグニン類やセルロース系炭素を作ろうと考えたため、温泉にもついくチップが本当になくなってしまふ。しかし、平成36年までは熱供給をすると契約しているため、普通のチップを使わざるを得なくなり、今年の7月から10月いっぱいくらい、試験的に普通に削ったチップを運びこんだようです。11月になっていったんもとの浄化液製造後のチップに戻したが、11月30日の破綻宣言で、従業員も解雇し、今日の事態に至りました。ジュオンとの契約が不履行となれば、市の責任で打開策を立てるべきだとか考えま

す。

以上、大まかな問題を谷口議員にまとめてもらいました。市長はこの事業

をさらに継続したいと言われています。形だけ継続させても魂は入らない。思い切って白紙に戻して、今後の対応を考え

るほうがベターだと谷口議員は言いま

からだを暮らしの中で考える 35



「養生の術をしようめまなび」

「自分のからだを自分が守る」とを昔の人は「養生」という言葉で表現していました。今は日常的にはあまり使われていない言葉ですが、今日のように生活習慣病などの慢性の病気が増えている中で、今一度見直していきたい言葉の一つといえます。

「養生」の言葉の意味

『広辞苑』によると、「養生」の言葉の意味は、一つは生命を養うこと、健康の増進をはかること、衛生を守ること、摂生すること、とし、『方丈記』の「常にありき(歩く)、常に働く(動く)は養生なるべし」を引用しています。もう一つの意味は、病

後、健康なからだを維持できることを表しています。そこでは、毎日食しているものはからだを作るのにふさわしいものになっているか、からだを有効に動かすよう心掛けていくか、ストレスをため込まず、前向きな生活を送っているかを問いかけています。

また、貝原益軒は、「養生の術をつとめまなびで、久しく行はば、身がよく病なくして天年をたもち、長生を得て、久しく楽しまんこと、必然のしるしあるべし」と、養生の必要性を強調しています。

未病を治す

「養生」ということは、主要には、自分のからだに向き合い、自分の健康を自分が責任を持ってコントロールすることを指しています。医聖といわれた古代ギリシャの医師ヒポクラテスは「病気を治す力は自

分のからだのことを一番よく知っているのは、自分です。「あれ、おかしいな」「ちよっと変だ」など、病気になる前のからだの変調に、自

分では気づいてあげることが大切です。おかしくなったら「薬か医者」頼みだけではなく、まず自分で対処してあげる選択肢も持ちたいですね。中国の医学には「未病」という言葉があります。「未病」というのは、「病気とは診断されないが健康でもない状態」をいい、この「未病を治す」のがすぐれた医者だといわれます。からだにはある日突然に病気になるのはありません。毎日の生活習慣の積み重ねの中で起こったもの。そうであるならその原因も自分ではわかるはず。誰かに頼るのではなく自分で生活を見直し、自分のから

(浪)